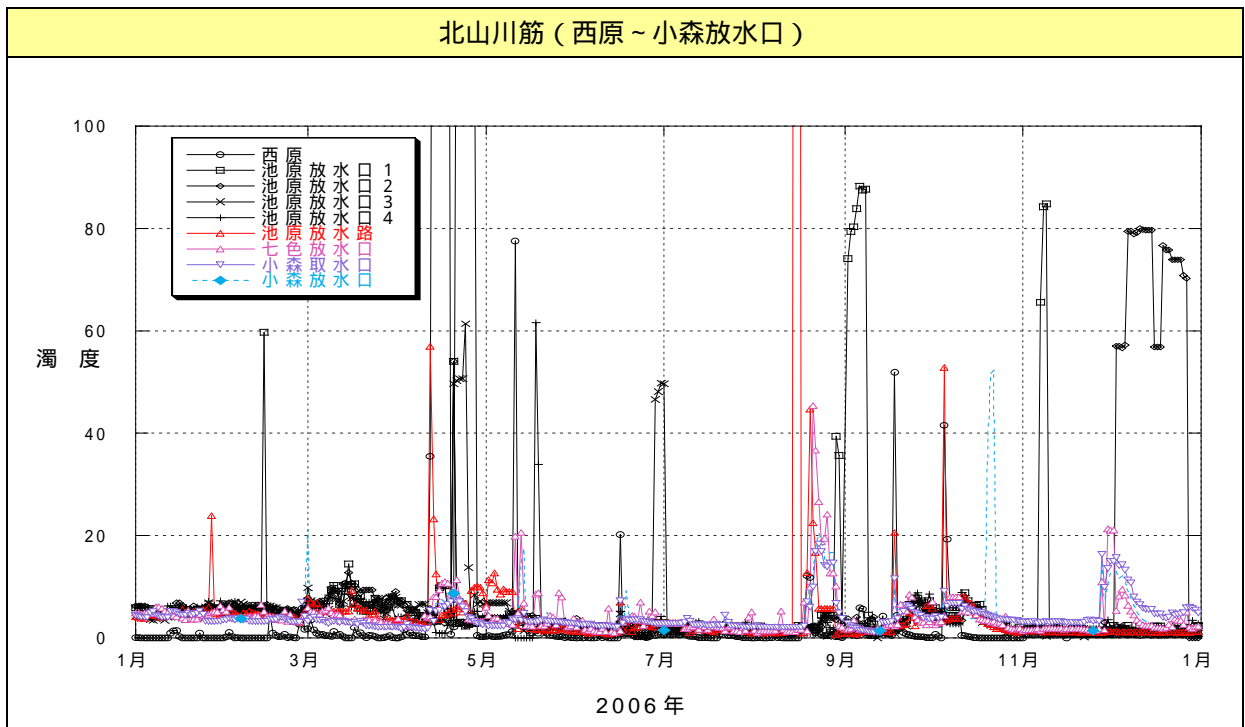
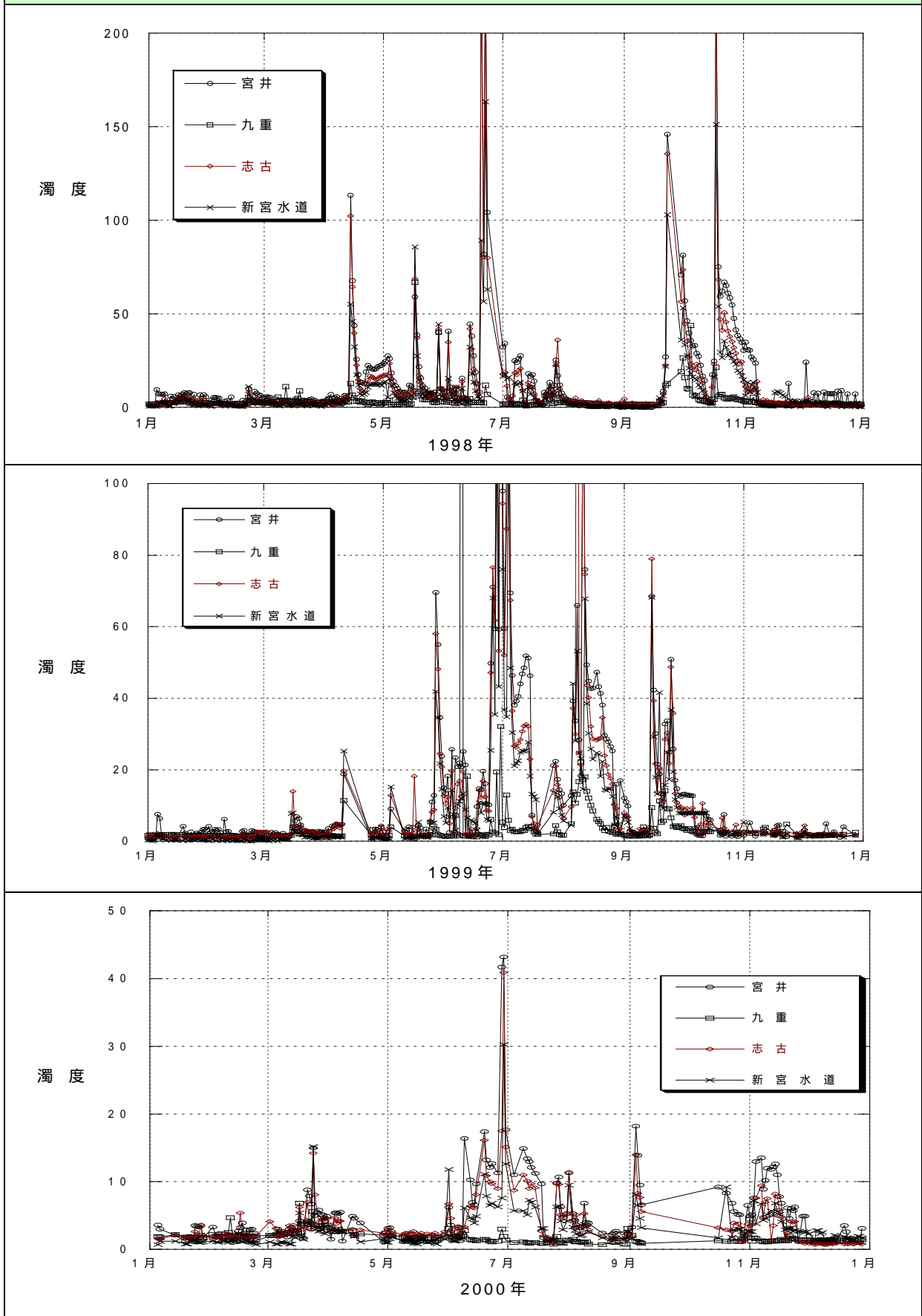


出典：濁度観測データより作成



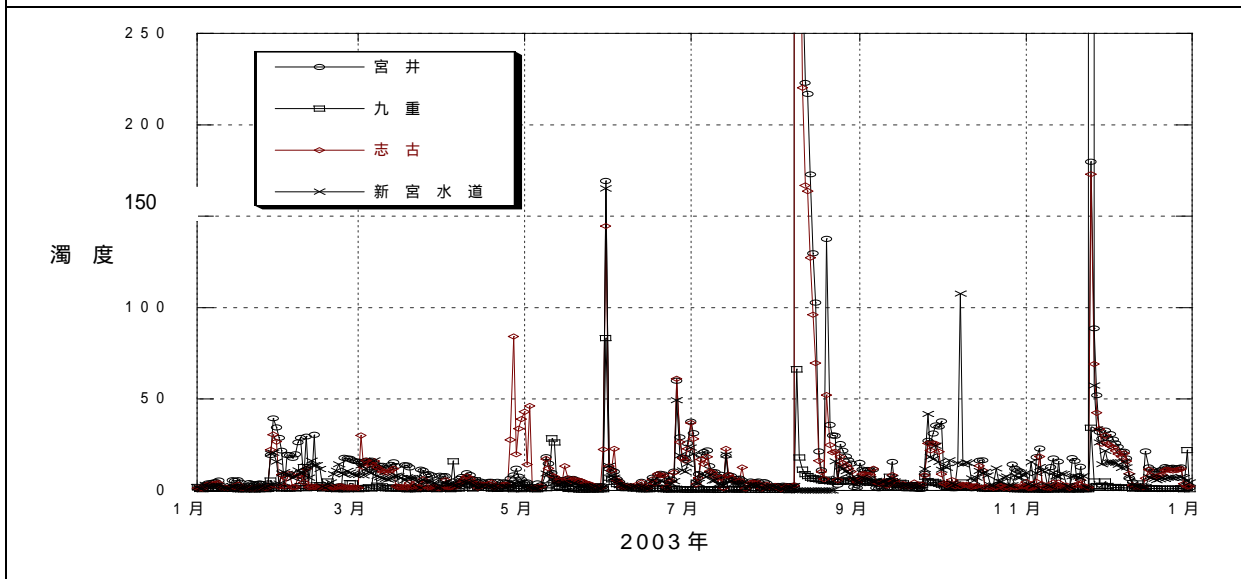
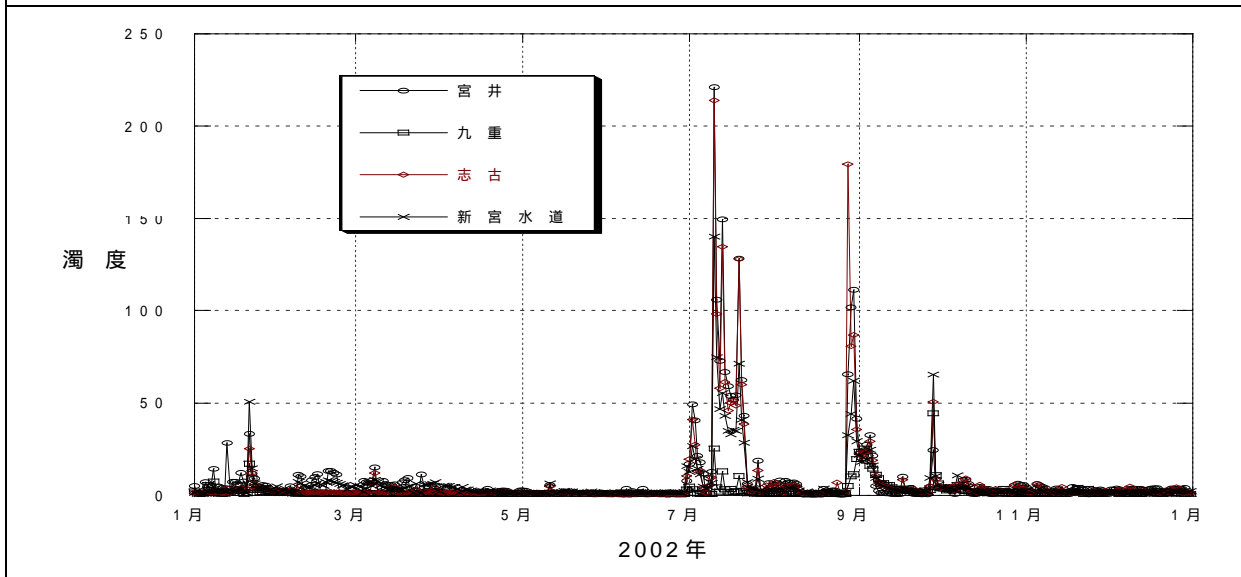
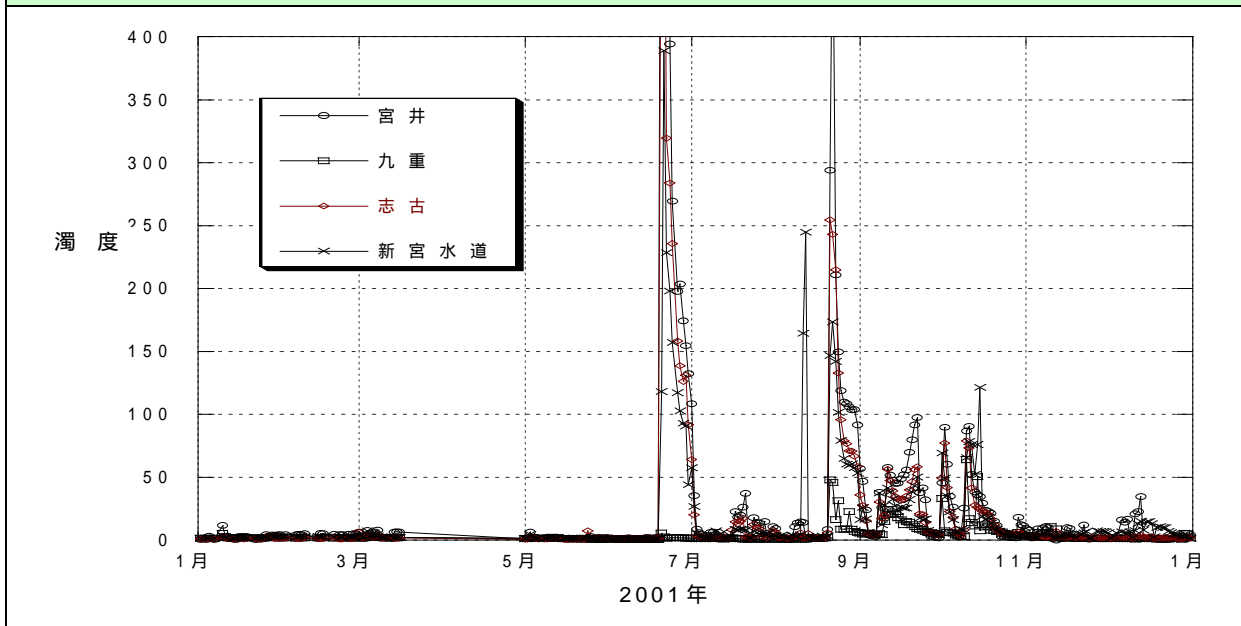
出典：濁度観測データより作成

下流区間(宮井~新宮水道間)

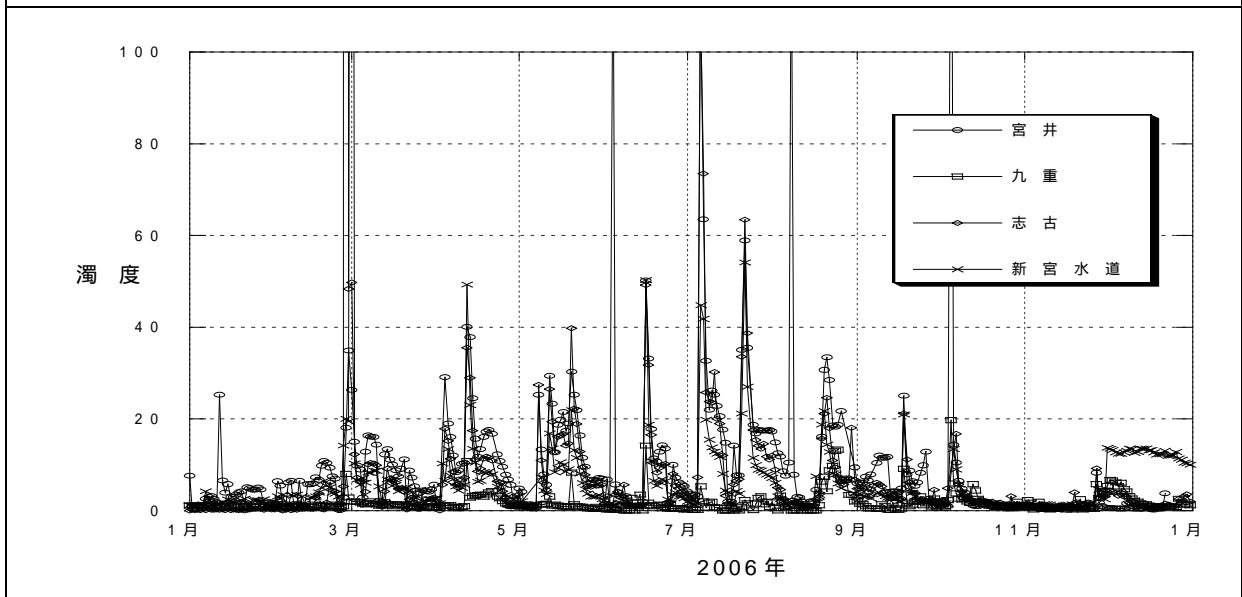
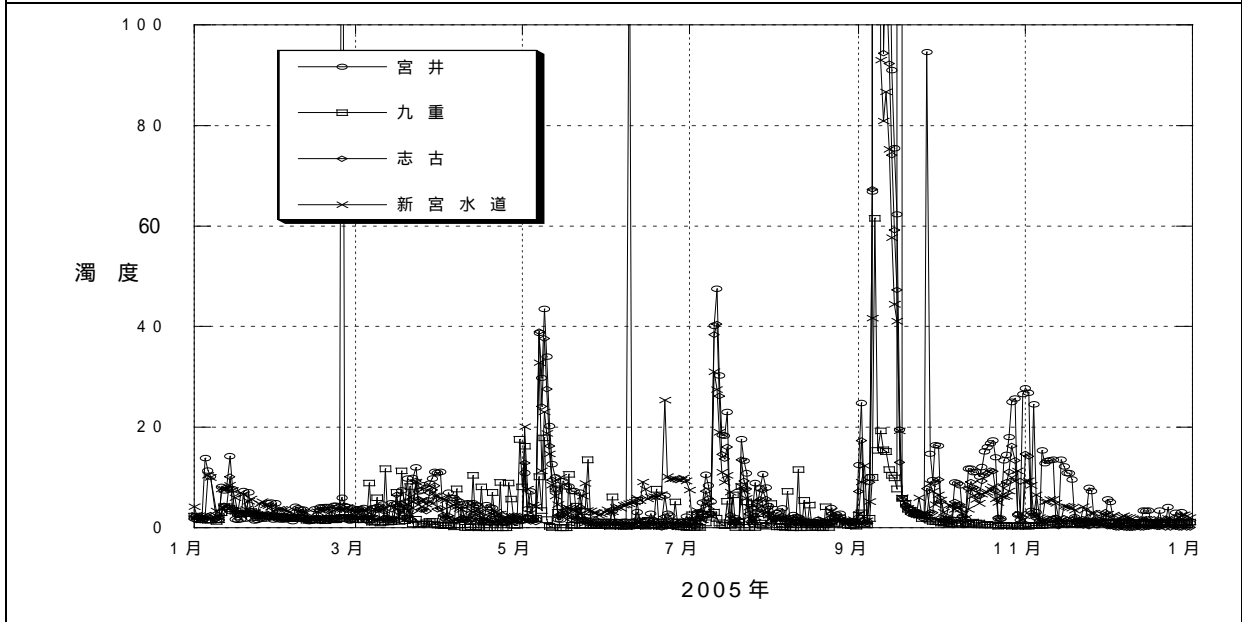
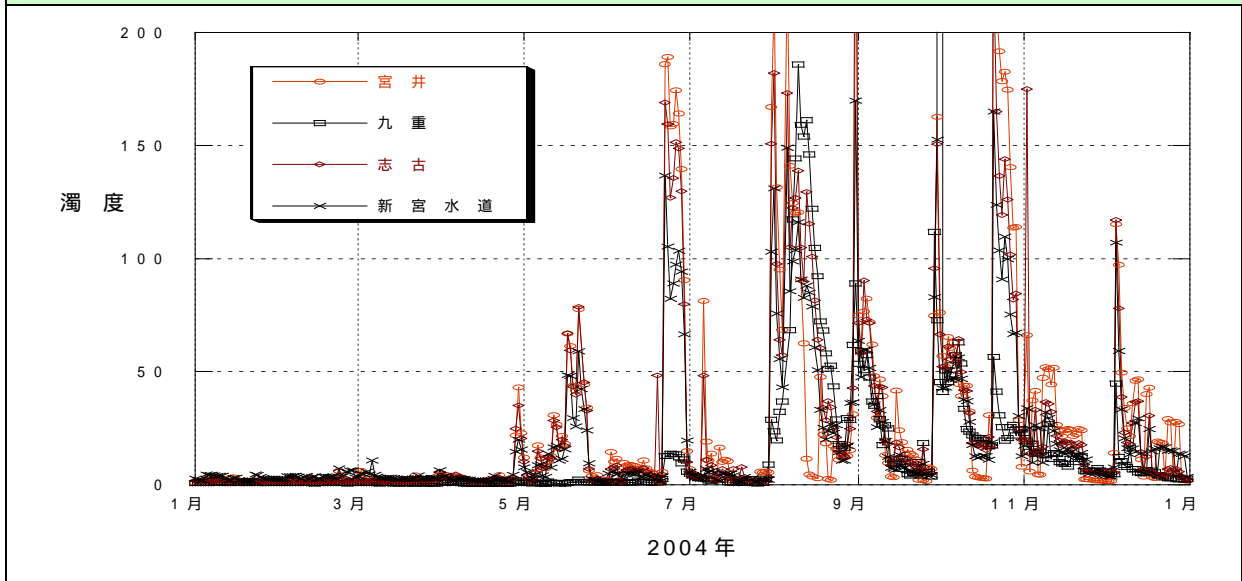


出典：濁度観測データより作成

下流区間(宮井~新宮水道間)



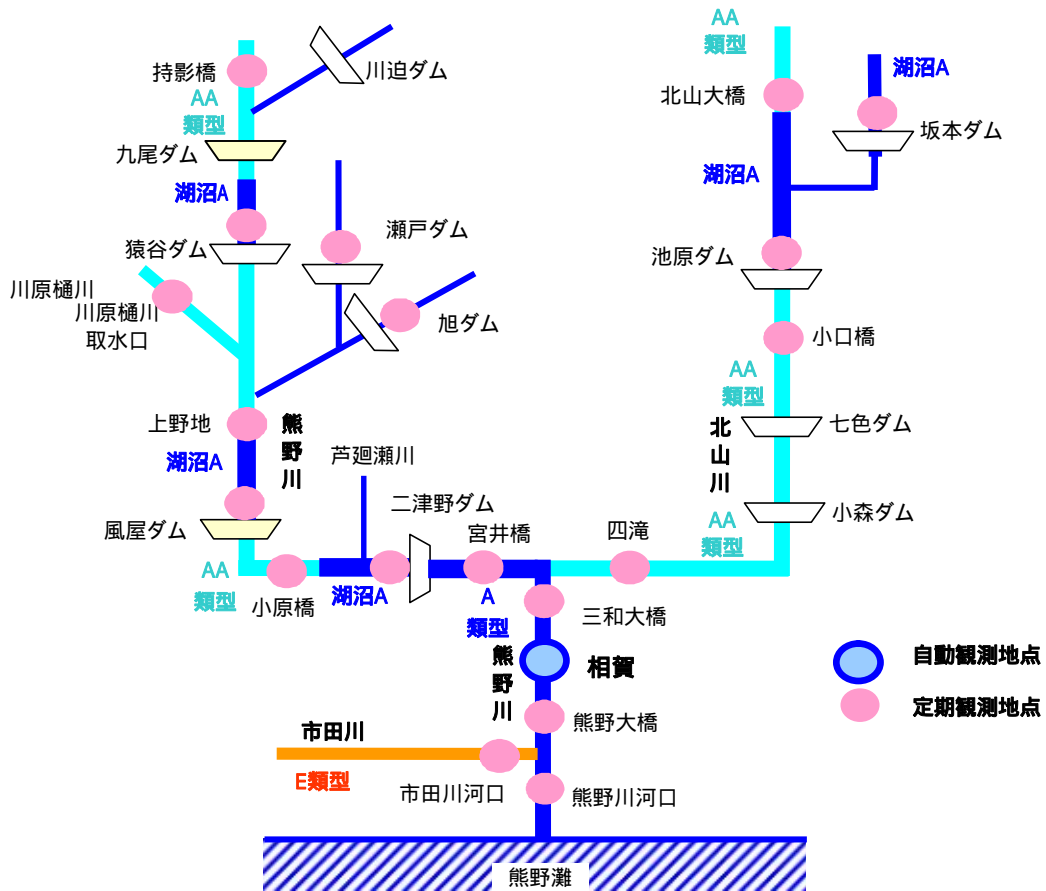
下流区間(宮井~新宮水道間)



出典：濁度観測データより作成

自然 流域全体の環境基準の指定状況

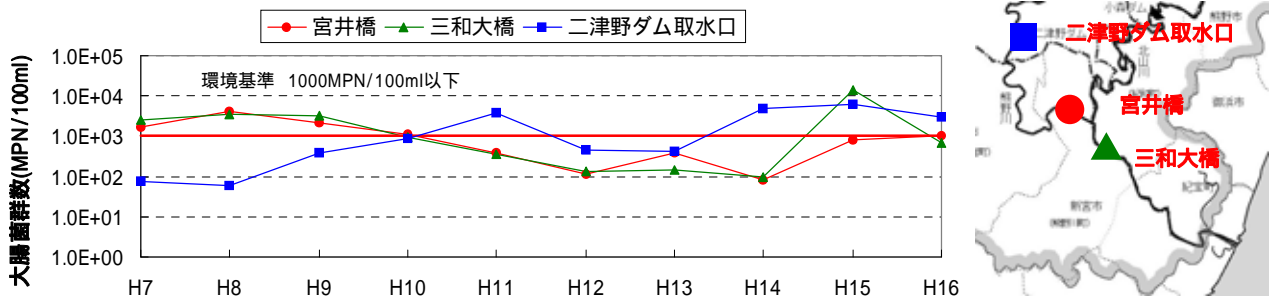
< 流域の環境基準の設定状況 >



出典: 第6回熊野川懇談会資料より作成

自然 熊野川の大腸菌群数の測定結果

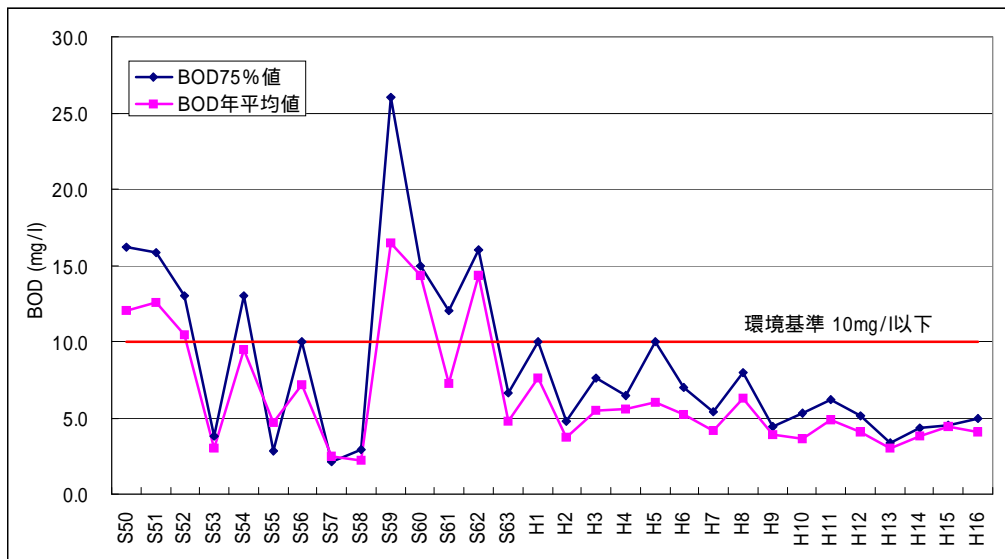
< 大腸菌群数の測定結果の推移 >



出典: 第6回熊野川懇談会資料

自然 市田川のBOD値の測定結果

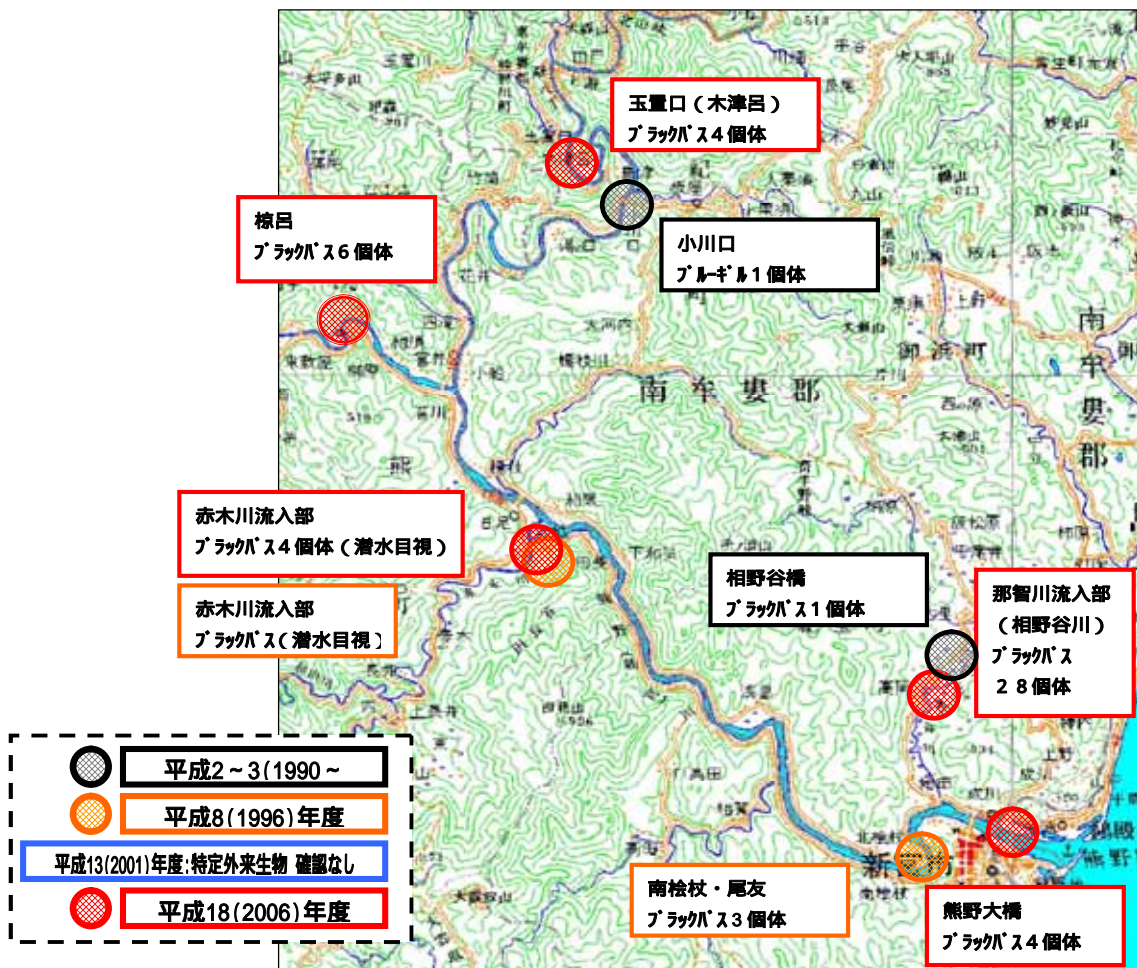
<市田川におけるBOD値の推移> (市田川河口地点)



出典:第6回熊野川懇談会資料

自然 オオクチバスの確認状況 (河川水辺の国勢調査結果より)

<オオクチバス等の確認状況位置図>



出典:第7回熊野川懇談会資料より作成

自然 流域の自然公園および自然環境の特性

< 自然公園位置図 >



- 吉野熊野国立公園
- 高野龍神国立公園

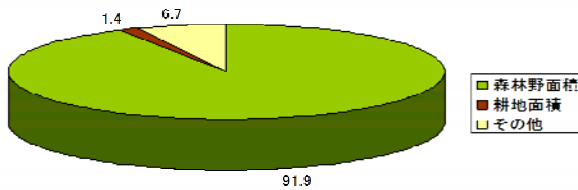
出典: 第2回熊野川懇談会資料

< 流域の林層 >



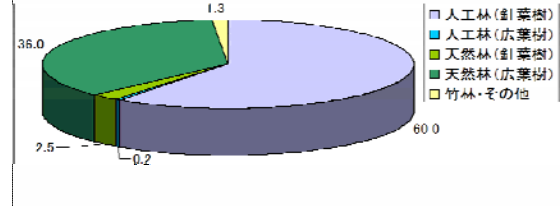
 シイ林	 アカマツ-常緑広葉樹林
 ナギ林	 コナラ-クリ-常緑広葉樹林
 シイ・カシ林	 コナラ-クリ林
 カシ類混合林	 アカマツ-落葉広葉樹林
 モミ・ツガ林	 モミ-落葉広葉樹林
 コウヤマキ・トガサワラ林	 ブナ林

森林野面積の占める割合(%)

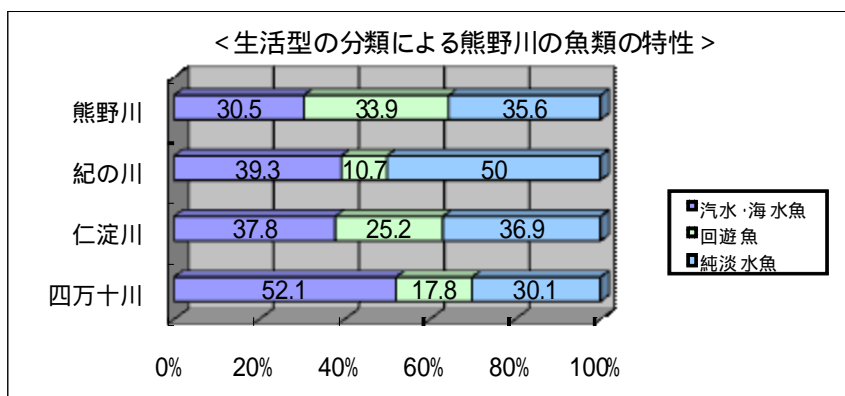


森林野面積：森林以外の草生地を加えた面積
 出典：2000年世界農林業(流域内市町村の面積を集計)

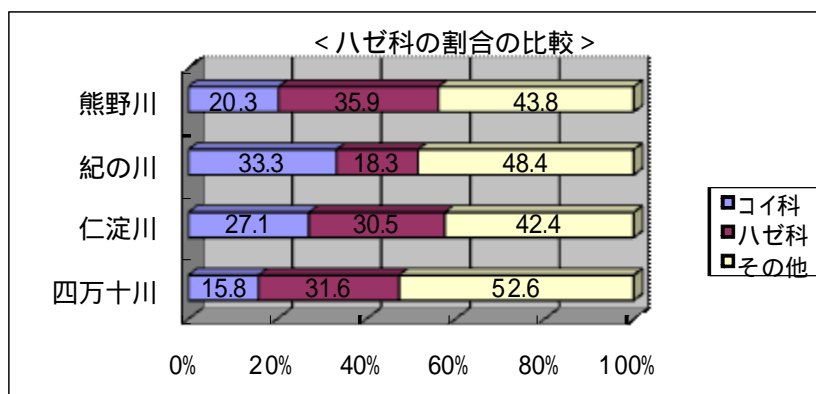
森林における林種の内訳(%)



自然 熊野川の魚種の特性



出典：第7回熊野川懇談会資料より作成



出典：第7回熊野川懇談会資料より作成

自然 熊野川の貴重種(魚類)

<絶滅危惧種や学術的重要種に指定された魚類>

目	科	種名	生活型	重要性			
				環境省 RD ブック	和歌山県 RD ブック	三重県 RD ブック	水産庁 D ブック
ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ目	スナヤツメ	純淡水魚	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	希少種
コイ目	コイ科	ビワヒガイ	純淡水魚				普通種
		イトモロコ	純淡水魚		学術的重要		
ナマズ目	アカザ科	アカザ	純淡水魚	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	絶滅危惧 類	
ダツ目	メダカ科	メダカ	純淡水魚	絶滅危惧 類	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
カサゴ目	カジカ科	カマキリ	回遊魚		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	減少種
		カジカ	回遊魚		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
スズキ目	ハゼ科	カワアナゴ	回遊魚			絶滅危惧 類	
		シロウオ	回遊魚	準絶滅危惧	絶滅危惧 類		
		イドミスハゼ	回遊魚	情報不足	学術的重要	情報不足	希少種
		オオヨシノポリ	回遊魚		学術的重要		
		ルリヨシノポリ	回遊魚		学術的重要		

出典：第7回熊野川懇談会資料より作成

[レッドデータブック 貴重性]

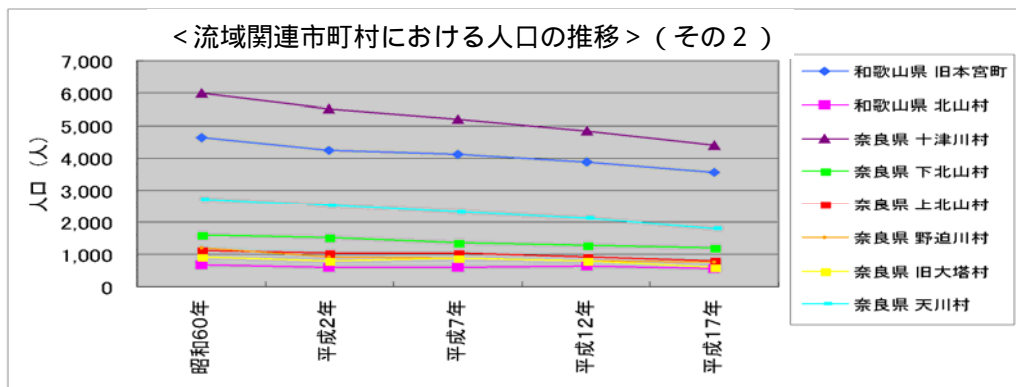
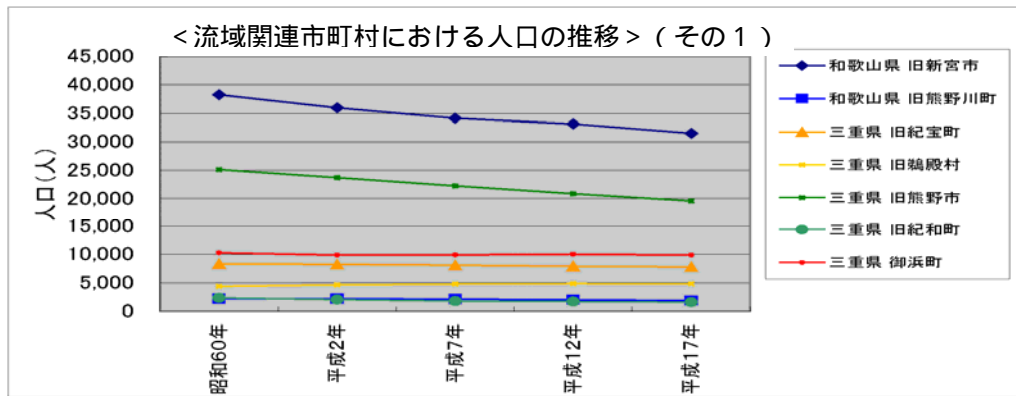
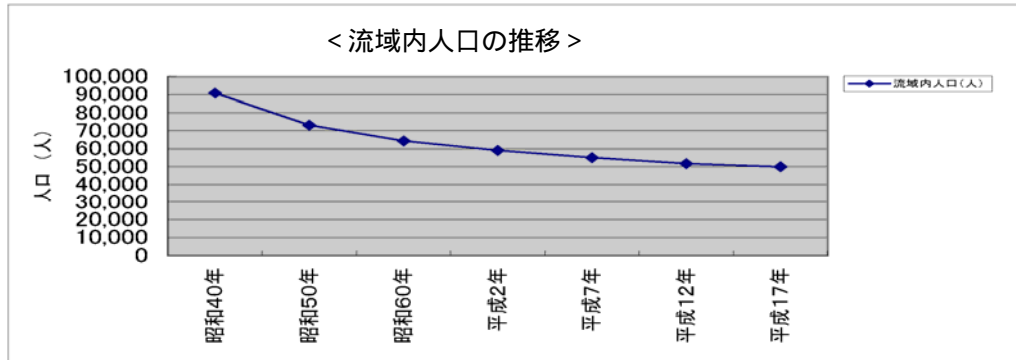
絶滅危惧I類	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧II類	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種
学術的重要	現状においては絶滅の危険度は少ないが、学術的に価値を有する種
情報不足	評価するだけの情報が不足している種

[水産庁データブック 凡例]

減少種	明らかに減少しているもの
希少種	存続基盤が脆弱な種
普通種	減少しているが、自然変動の範囲内にあるもの

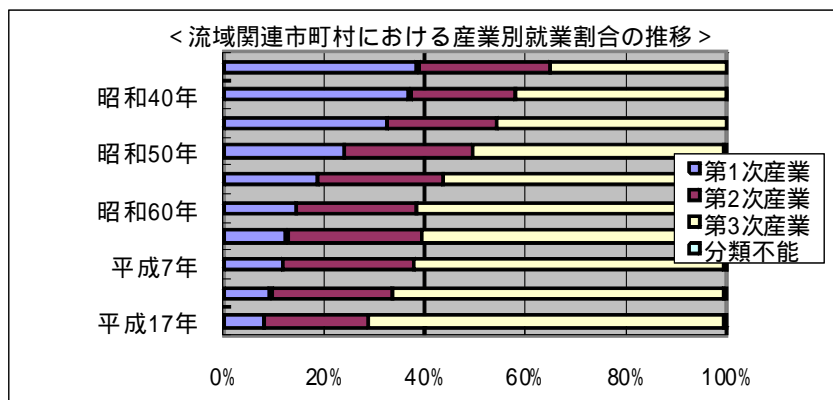
5. 社会環境の現状

社会 流域内の人口の推移



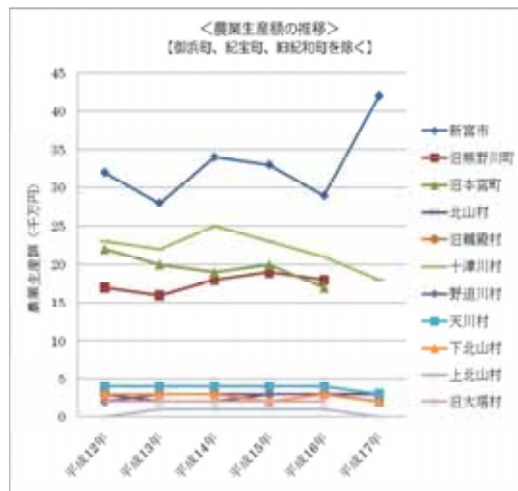
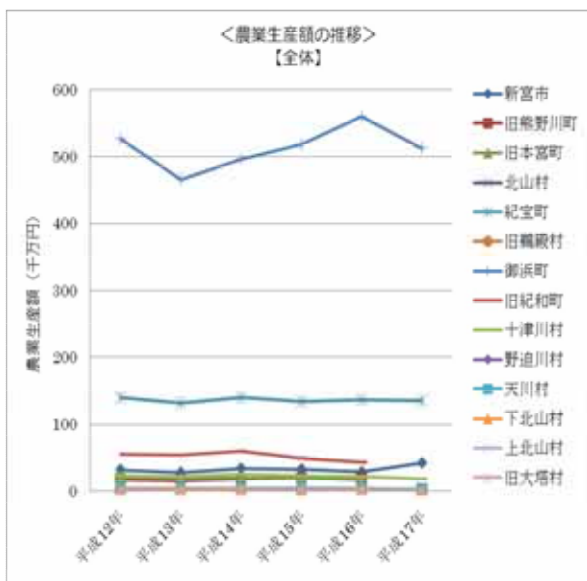
出典：国勢調査結果より作成

社会 産業別就業者割合の推移

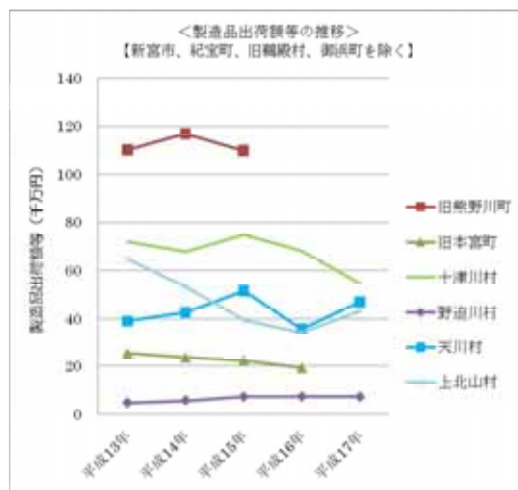


出典：国勢調査結果より作成

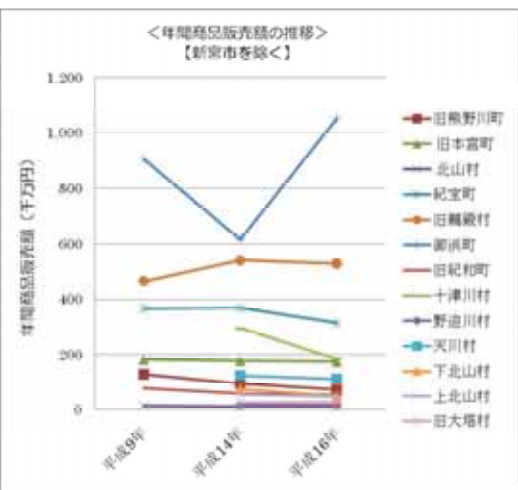
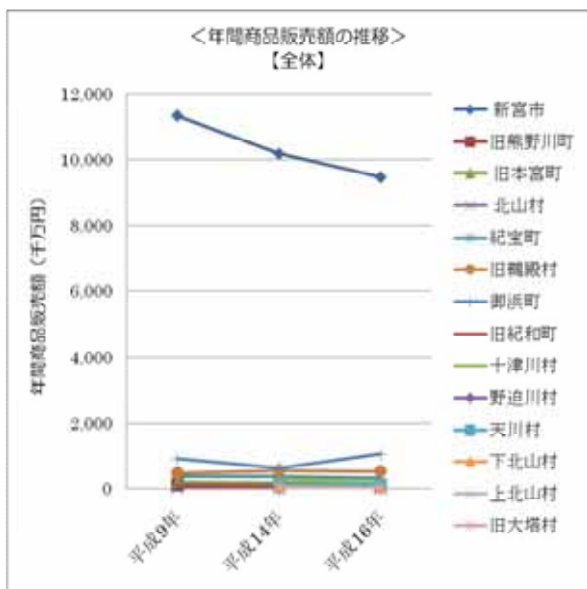
社会 産業の推移（農業生産額、製造品出荷額、年間商品販売額）



出典：生産農業所得統計より作成



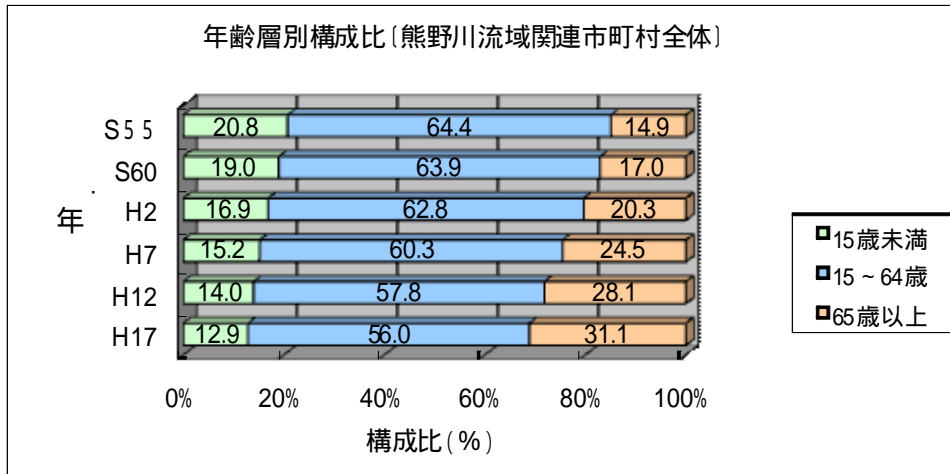
出典：工業統計表（市区町村編）より作成



出典：統計年鑑（和歌山県、三重県、奈良県）より作成

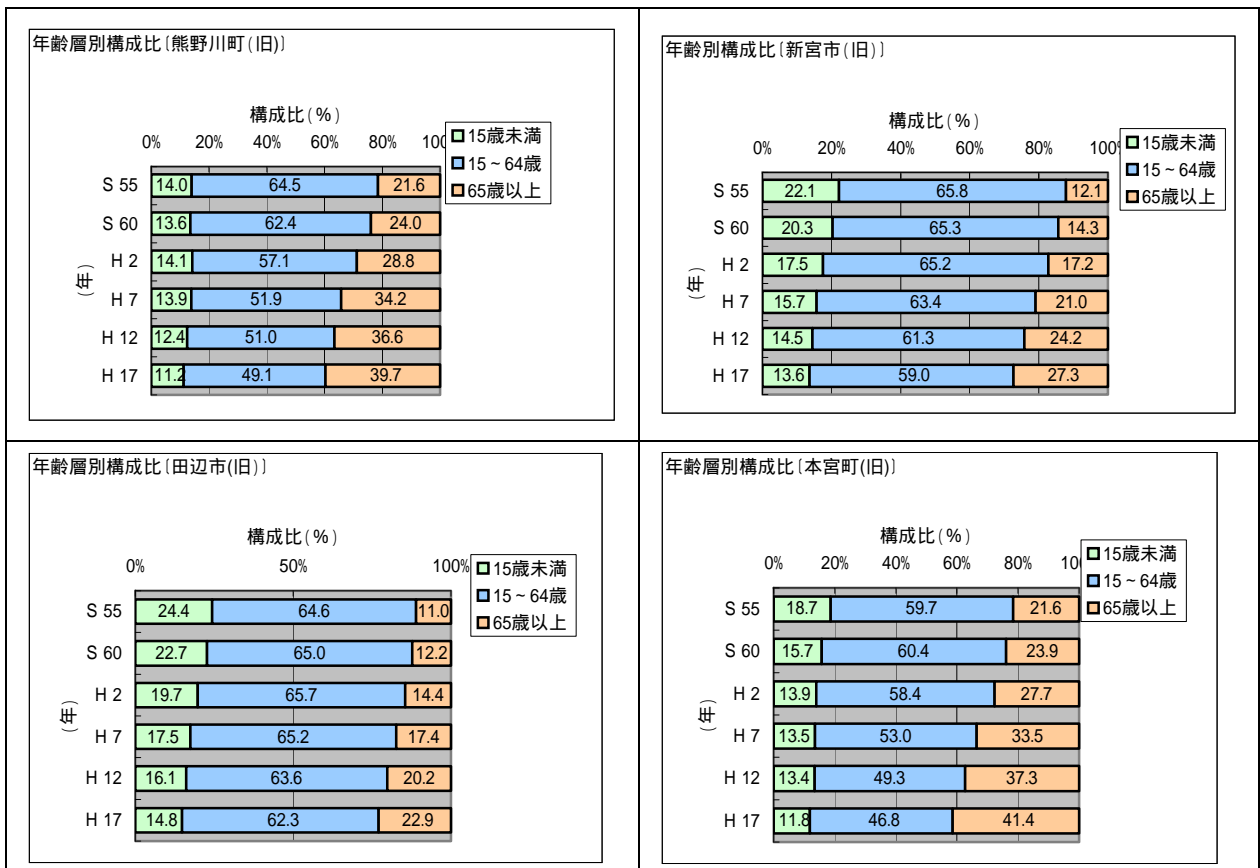
社会 流域の人口構成(年齢層別構成比)

<熊野川流域関連市町村全体>



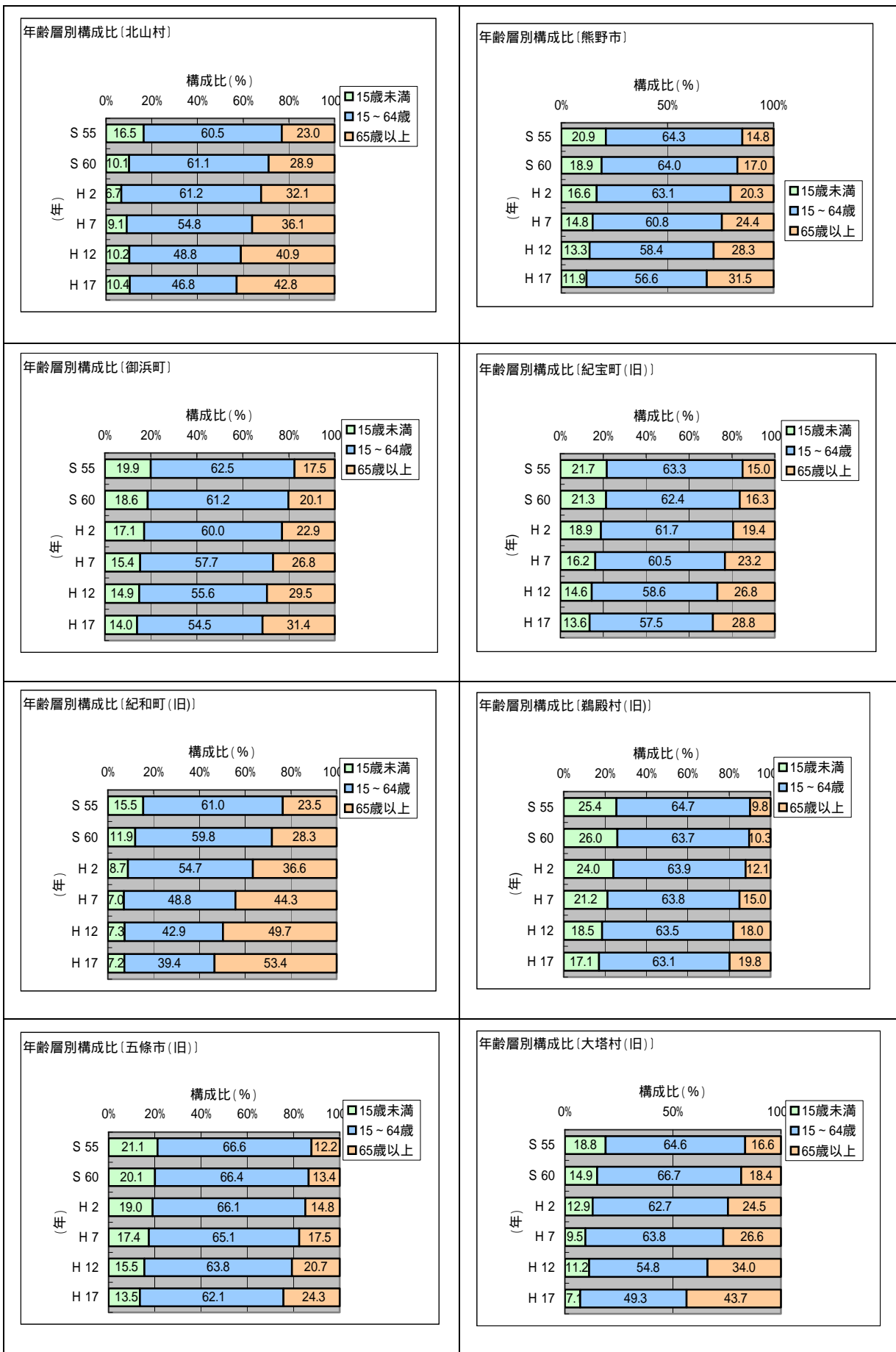
出典：国勢調査結果より作成

<流域関連市町村別>



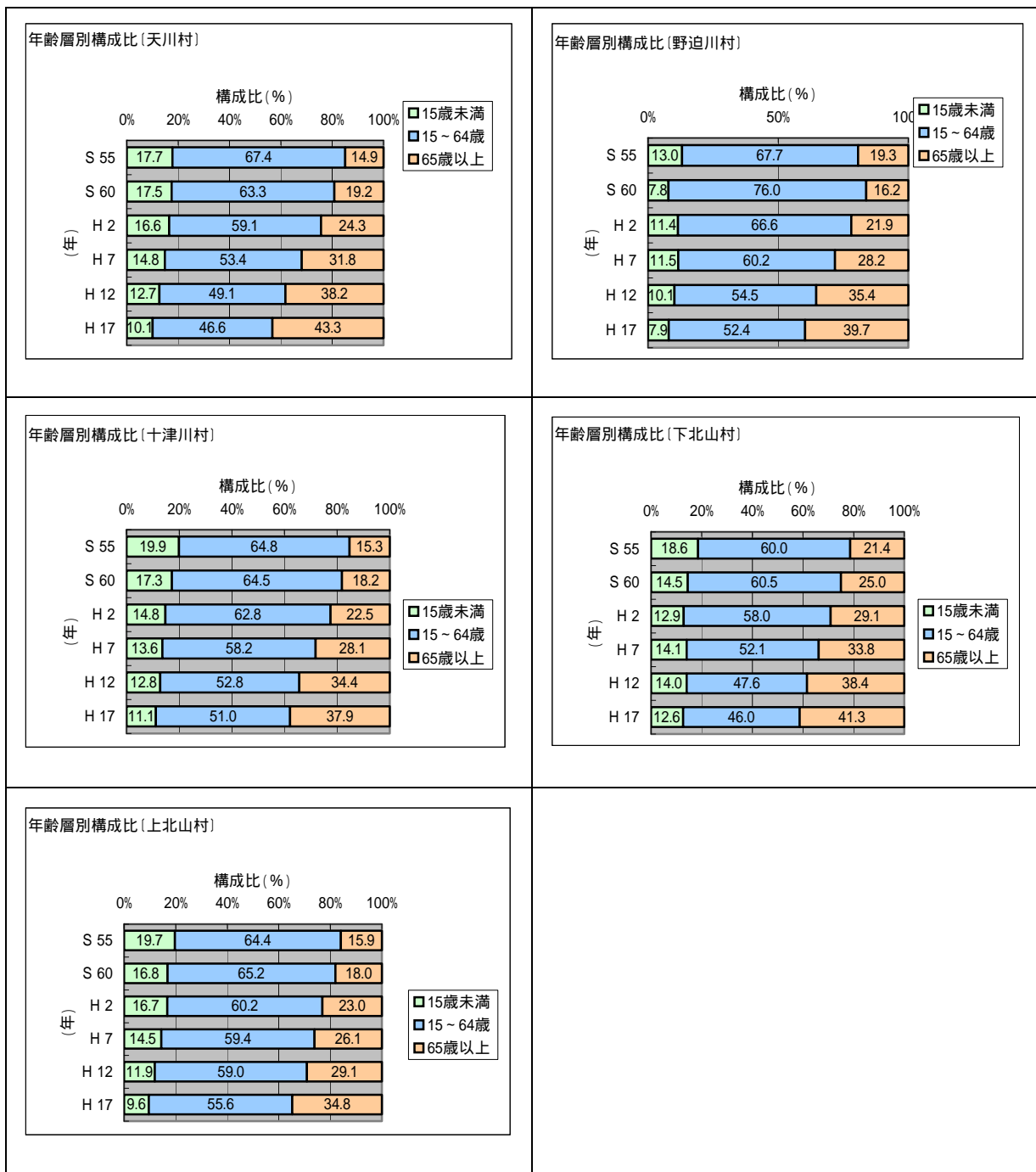
出典：国勢調査結果より作成

< 流域関連市町村 >



出典：国勢調査結果より作成

< 流域関連市町村別 >



出典：国勢調査結果より作成

社会 熊野古道の概要



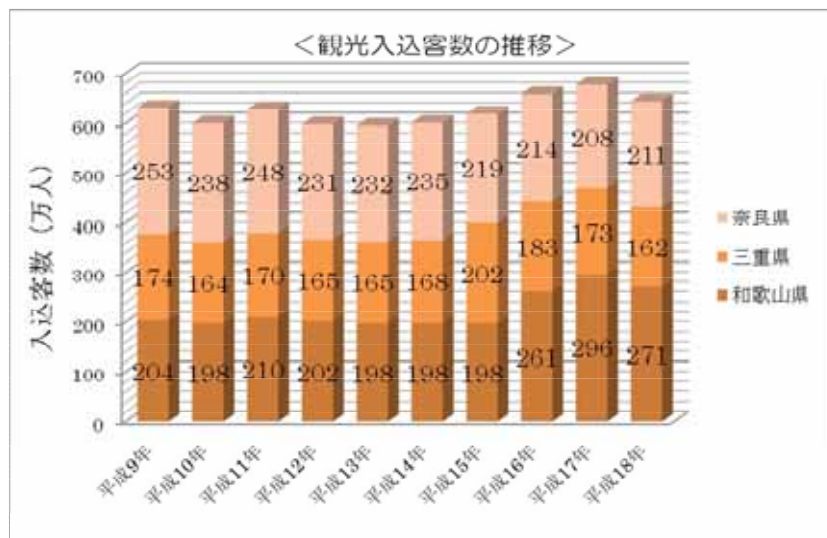
①熊野本宮大社



②熊野速玉大社

出典：第2回熊野川懇談会資料

社会 観光入込客数の推移



出典：観光入込客数調査資料（和歌山県、三重県、奈良県）より作成

<用語集>

・熊野川流域の概要

1) 幹川流路延長

一つの水系の中で流量・流域面積の大きいものを幹川とし、一般的には河口(または合流点)から源流までの流路の延長を言う。

2) 流域面積

降雨や降雪がその河川に流入する範囲のことを流域と言い、その境界線のことを流域界、面積を流域面積と言う。

3) 洗掘蛇行河川

川幅の広い河川の場合、流水の作用により河川が蛇行し、水衝部においては洗掘されて淵が形成される。このように河川が蛇行し瀬や淵が交互に現れる河川のことを言う。

4) 中央構造線

関東地方から九州地方に至る我国最大最長の構造線(大きな断層)のこと。中央構造線によって日本列島は内帯と外帯に分けられ、内帯はジュラ紀以前に大陸の端に付け加わったもの、外帯は内帯よりも新しく、白亜紀以降に南の海で生まれたものがプレートに乗り、内帯の南側に付け加わったものである。

5) 亜寒帯

温帯と寒帯の間、緯度50~70度くらいの気候帯。冬は寒冷で長期間積雪に覆われ、夏の期間が短い。

6) 冷温帯

落葉広葉樹林帯のことで、夏緑樹林帯とも言う。北海道の常緑針葉樹林帯をのぞく全域(おもに南西部)、東北地方から中部地方の亜高山帯をのぞく広い地域、近畿地方の山地、中国山地、四国山地、九州山地に広がる。ブナ、トチノキ、カツラ、クリ、カエデ、ケヤキ、ミズナラ(ナラ)などが主要な樹木となる。

7) 暖温帯

常緑広葉樹林帯のことで照葉樹林帯とも言う。本州中部地方以南の海岸地域、伊豆諸島、四国と九州の標高1000mより低い地域に広がる。シイ、カシ、ツバキ、タブノキ、クスノキなどが、主要な樹木となる。

8) 吉野熊野総合開発計画

戦後における資源開発の目的で、奈良県、三重県、和歌山県にまたがる吉野熊野地方の自然環境を高度に利用するため、電源開発、林産資源開発、農産資源開発、国土保全、交通施設の整備を目的に策定された事業計画のこと。

9) 十津川紀の川総合開発事業

昭和25年に国(農水省、建設省)の立会いのもと、奈良・和歌山の両県により実施されることになった開発事業のことで、この事業により、紀の川の水一部が奈良盆地に分水され、その代わりとして十津川の水が紀の川に分水されることになった。後に吉野熊野総合開発計画に組み込まれた。

10) 団平船

米や炭俵、雑荷などを運ぶのに使われた堅牢なはしけのこと。

11) 平家物語

鎌倉前期の軍記物語のこと。平家一門の栄枯盛衰を中心に治承・寿永の動乱の歴史を描いたもので、琵琶法師により語られ広められた。

12) 水辺の国勢調査

河川事業、河川管理等を適切に推進する際に必要な基礎情報の収集を図るため、国土交通省および各都道府県によって各項目概ね5年に1度行われている調査のこと。「魚介類調査」「底生動物調査」「植物調査」「鳥類調査」「両生類・爬虫類・哺乳類調査」「陸上昆虫類等調査」という6つの生物調査と河道の瀬・淵や水際の状況等を調査する「河川調査」、河川空間の利用者などを調査する「河川空間利用実態調査」の8項目が行われている。

13) 回遊魚(淡水魚)

一定の時期と経路をたどり移動を繰り返す魚類のこと。淡水魚においては、その移動の経路により遡河回遊魚(河川で生まれて、海で成長し、また産卵のために河川に戻ってくる魚のこと。(例 サケ))、降河回遊魚(海で生まれて、川に入り成長する魚(例 ウナギ))、両側回遊魚(河川で生まれてすぐに海に下り、また河川に戻ってきて成長する魚のこと。(例 アユ))に分類される。

14) 激甚災害

規模が特に甚大であり国民生活に著しい影響を与えたと指定された災害のこと。様々な補助・優遇制度を活用した災害復旧が可能となる。

15) 輪中堤

ある特定の区域を洪水の氾濫から守るため、その周囲を囲むようにつくられた堤防のこと。歴史的には、木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)の下流の濃尾平野の輪中堤が有名である。相野谷川では、鮎田、高岡、大里の3地区で建設されている。

16) 自動急閉装置

津波の到達が予想される地域の水門において、地震の震度を観測して、津波の第一波到達までに自動的に水門を緊急閉鎖する装置のこと。

・流域の現状と課題

1. 治水の現状と課題

17) 計画高水流量

基本高水のピーク流量からダムや遊水池の貯留による洪水調節流量を差し引いた、河道(河川)へ配分される流量のことで、河道を計画する際の基本となる。

18) 一級河川

一級水系に係る河川で、国土交通大臣が指定した河川のこと。なお、一級河川は、一級水系のみに指定されるので、一級河川に指定されている水系に二級河川が指定されることはない。

19) 直轄管理区間

一級河川の内、都道府県知事に管理を委任した区間(指定区間)を除く、国土交通大臣が直接管理する区間を直轄管理区間(指定区間外区間)と言う。

20) 内水排除用ポンプ

堤防で守られた低内地に溜まった水(内水という)を河川に排水するためのポンプのこと。

21) 超過洪水

治水事業は一定限度の規模の洪水を対象として、その氾濫の防止に必要な計画を定め、工事を実施することで進められている。しかし、洪水は自然現象である以上、計画の規模を上回る洪水が発生する可能性が常に存在する。そのような洪水を超過洪水と言う。

22) 洪水ハザードマップ

洪水災害における被害を最小限に食い止めるため、予想される浸水の程度を図面等に表示するとともに、避難場所等の各種情報を分かりやすく図面等に表示したもの。河川管理者が公表する浸水想定区域図をもとに、自治体が作成する。

23) 貯水容量

洪水時に、ダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位(サーチャージ水位)までに溜められるダムの容量のこと。堆砂容量、死水容量、利水容量、洪水調節容量を合計したもの。

24) 一斉造林

伐採跡地などに同じ樹種を一度に植林すること。

25) モニタリング

監視・追跡のために行う観測や調査のこと。継続監視とも言う。

26) 堆積土砂の河川還元

堆積した土砂を元の川の流れに戻すことを言う。

27) 瀬切れ

渇水時などに、上下流の流れが途切れて、川底が露出する状態のこと。この状態が続くと魚類が移動できなくなる等生態系に大きな影響を与える。

28) 滞筋

川の中で平常時に水が流れている深い部分のことを言う。

29) 卓越波向き

波高が最も高い風浪またはうねりの波の向きのこと。

30) 離岸堤

海岸線の沖合いに海岸と平行に作られる構造物で、波の勢いを弱め陸上部への波の侵入を食い止めるため、また、海岸の砂が波で沖にとられるのを防ぐために設置する。

31) 人工リーフ

潜堤(堤体が水面下に没した消波構造物)の内、天端水深を深く、幅を広くしたものを人工リーフと言う。自然のサンゴ礁をまねた構造物で、海岸付近に幅広い浅瀬を作るために設置する。

32) 漂砂系

漂砂は、波、または海に発生する様々な流れによって生じる土砂の移動、もしくは移動する土砂のことで、海岸侵食・堆積に深く関わる。漂砂の主な供給源は河川であり、それゆえ、河川流域および漂砂の移動する沿岸域をまとめて「漂砂系」と呼称する。なお、漂砂の移動する沿岸域は、おおよそ水深約20mが限界であり、勾配を考えるとせいぜい沖合1kmまでである。

33) 汀線

海面(湖面)と陸地との境の線。なぎさの線。

34) サンドバイパス

海岸などに港などがつくられた場合、砂の流れが港によって堰き止められ、流れの上手では海岸線が沖に向って前進する一方、下手側では砂の流れが阻害され、海岸線が陸側に後退する場合がある。そのような際に、港の上手に溜まった砂を侵食された港の下手側に移動させ、砂浜を復元する方法のことを言う。

35) サンドリサイクル

海岸などに設けられた構造物によって砂の流れが堰き止められて溜まった砂を、砂の流れの上手海岸に戻し、砂浜を復元する方法を言う。

36) 中央防災会議

内閣の重要政策に関する会議の一つとして、内閣総理大臣をはじめとする全閣僚、指定公共機関の代表者及び学識経験者により構成されており、防災基本計画の作成や、防災に関する重要事項の審議等を行っている。

37) 断層モデル

断層から発生する地震動を予測する場合に、断層の複雑な動きをわかりやすくモデル化したもののこと。

38) 流出モデル

降雨量から主要地点の流量を算出するための計算システムのこと。

2. 利用・利水の現状と課題

39) ハブ港湾

各地域の港湾に出入りする貨物を集積し、超大型コンテナ船による大量輸送が可能となるよう整備された大規模港湾施設のこと。大水深コンテナターミナルを備える。

40) 感潮区間

河川の河口付近で、海の潮汐が河川の水位や流速に影響を与える区間のことを言う。

41) 河岸段丘

河川の中・下流域に流路に沿って発達する階段状の地形のこと。平坦な部分と傾斜が急な崖とが交互に現れ、平坦な部分を段丘面、急崖部分を段丘崖と言う。

42) 逆調整池

水力発電所では昼と夜で放流量の変動が大きく、そのまま放流すると下流の河川水位が大きく変動してしまう。このような場合に、発電所からの放流を一旦貯めて、放流量を調節して流せるように設けられる調整池のことを言う。

43) 豊水、平水、低水、濁水

一年を通じての日流量を大きい方から小さい順に並び替えて、それぞれの流量を次のように定めている。

豊水流量：1年を通じて95日はこれを下らない流量。

平水流量：1年を通じて185日はこれを下らない流量

低水流量：1年を通じて275日はこれを下らない流量

濁水流量：1年を通じて355日はこれを下らない流量

44) せぎ漁

鮎が産卵の為川を下る習性を利用し、川に竹等で簡単な堰を作って下って来た鮎を一カ所に集め、小鷹網で獲る漁法のことを言う。

3. 自然環境の現状と課題

45) 濁度

水の濁りの程度を表すもので、水1L中に標準物質(カオリン等)1mgを含む場合と同程度の濁りを濁度1度(または1mg/l)としている。一般に河川の上流では1~10度で、下流に行くに従って50~90度ぐらいになる。

46) 選択取水施設

水深により温度や濁度などが異なるダム湖の特性を利用して、取水する高さを変えることで目的に合った水質の水を取水するための施設のことを言う。冷水対策、濁水対策などに利用される。

47) BOD

生物化学的酸素要求量の略称。水中に含まれている有機物が微生物によって好気性分解を受けるときに、必要とする酸素量をmg/lまたはppm単位で表したものの。値が大きいくほど水質汚濁は著しいことになる。環

境基準の達成の判定は、年間の日間平均値の全データのうち75%以上のデータが基準値を満足しているものを達成地点とすることとされていることから、環境基準値との比較においてはBOD75%値を用いる。

48) pH

液体の水素イオン濃度を表す記号で、液体1l中の水素イオンのグラム数の逆数の常用対数の値であり、水の酸性・アルカリ性を表す指標となる。pH7を中性とし、7以上がアルカリ性で、7以下が酸性となる。

49) DO

水中に溶存する酸素量のこと。水生生物の生息に必要で、数値が大きいほど良好な環境といえる。温度や圧力に左右され、大気圧下における20℃の純水のDOは約9ppmである。生物の呼吸や溶解物質の酸化などに消費されるので、汚濁された水ほどDOは減少する。

50) SS値

水中に溶存する粒径2mm以下の有機物、無機物を含む固形物の総称で、水の濁りの原因となるもので、懸濁物質ともいい、通常ppmで示す。

51) 環境基準値

人の健康の保護及び生活環境の保全の上で、維持されることが望ましい基準の目標を定めたもの。全国一律の基準ではなく、河川、湖沼、海域の特性や利用目的に応じて、類型が指定されており、河川の場合、pH、BOD、SS、DOおよび大腸菌群数の基準値や利用目的の適応性に対応して、AA類型、A類型、B類型、C類型、D類型、Eタイプの6段階がある。

52) 大腸菌群数

大腸菌群とは、人間及び動物の腸管から排出される大腸菌と、この大腸菌と似た性質をもっていて、土や水の中に広く分布している細菌の総称である。大腸菌は、糞便中に多量に存在するので、糞便汚染の指標となり、水質検査に多く用いられる。

53) E類型(環境基準)

河川における、pH、BOD、SS、DOおよび大腸菌群数の6段階の環境基準値のうち、最も汚濁が進んだ河川の目標とされる基準値のこと。

54) 多年生草本

木部があまり発達せず地上部が一年で枯れる植物である草本の中で、二年以上にわたって生存する草本のことを言う。毎年冬になると地上部は枯死するが、地下部は越冬し春に芽を出す。

55) 貴重種

地方版RDB(レッドデータブック)の中で、和歌山県などが指定しているカテゴリーのひとつ。環境省の定めたRDBにおけるその他のカテゴリーに相当する。

56) 山腹工

裸地あるいは崩壊地の地表土の風化・侵食・崩壊の拡大を防止して、土砂生産の抑制を図る工事の総称で、鉄筋やコンクリートで地表を固定する手法や植物を用いる手法などがある。

57) 公共下水道

市街地の下水(雨水と汚水)を収集排除する施設であり、排水施設の大部分が地下に埋められている構造のものを言う。施設及び管理などは原則として市町村が行う。市町村独自の終末処理場で処理し河川や海域などに放流する公共下水道と、流域下水道につないで処理する流域関連公共下水道がある。

58) 農業集落排水事業

農業集落からのし尿、生活雑排水または雨水を処理する施設を整備する事業のこと。農地や農業用排水路に汚れた水が流れ込むのを防ぎ、公共用水域の水質保全および農業用排水施設の機能維持または農村の生活環境の改善を図り、生産性の高い農業の実現と活力ある農村社会の形成に資することを事業目的としている。

59) 合併浄化槽

トイレ汚水であるし尿と、台所や風呂、洗たくなどからの排水をあわせて処理することができる浄化槽のことを言う。下水道未整備地域におけるトイレの水洗化対策として普及してきた。1983年に浄化槽法が改正されたことによって、単独浄化槽が実質的に禁止されたため、現在では浄化槽といえば合併浄化槽を意味する。

60) 塩沼植物群落

塩沼とは、陸地と海との間の潮間の遷移でできた潮水の沼のことである。このような特殊な条件で生育する塩生植物の群落のこと。

61) 地方版レッドデータブック

レッドデータブック(RDB)とは、絶滅の恐れのある野生生物の情報をとりまとめた本のことである。地方版RDBとは、この中で県等がその地域の絶滅の恐れのある野生生物の情報をとりまとめたものをいう。

62) 絶滅危惧種

RDBにおいて、絶滅の危機に瀕している種(IA類)あるいは絶滅の危険が増大している種(IB類)のことを言う。

63) 学術的重要種

地方版RDBの中で、和歌山県などが指定しているカテゴリーのひとつ。環境省の定めたRDBにおけるその他のカテゴリーに相当する。

64) 多自然川づくり

国土交通省が平成18年10月に定めた「多自然川づくり基本指針」において規定した、新しい川づくりの指針のこと。「多自然川づくり」をすべての川づくりの基本とすることとし、「自然の特性やメカニズムの活用」、「河川全体の自然の営みを視野に入れた川づくり」、「生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出」、「地域の暮らし、歴史・文化と結びついた川づくり」、「河川管理全段階を視野に入れた川づくり」などを規定している。

4. 社会環境の現状と課題

65) 過疎地域自立促進特別措置法

人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域(過疎地域)について、総合的かつ計画的な対策を実施するために必要な特別措置を講ずることにより、これらの地域の自立促進を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正及び美しく風格ある国土の形成に寄与することを目的として制定された法律。

66) 紀州鉱山

南牟婁郡紀和町にあったいくつかの鉱山の総称である。鉱山の歴史は古く、『紀伊風土記』に書かれているほか、天平17年(745)に建立された奈良の大仏の表面の金箔は楊枝川の砂金を使ったという説がある。昭和9年に石原産業が銅の鉱山を開き、昭和14年には2,403トン、従業員2,387人を誇った。終戦後一時事業を縮小したが、昭和26年に上川地区から鉛鉱が発見されると昭和27年には含有銅量2,450トン、硫化精鉱20,900トンを生産し、全国6,7位の鉱山になった。昭和40年代以降、国際銅価の低迷と採掘原価の上昇が重なり、昭和53年5月に閉山となった。

67) 筏師

材木を連結して組んだ木材運搬用の筏に乗り、これを操る事を生業とした人。

68) 文化的景観

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないものこと。

69) 一遍上人絵伝

一遍(いっぺん、(1239年-1289年)は鎌倉時代中期の僧。時宗の開祖。一遍は房号で、法諱は智真。遊行上人、捨聖(すてひじり)とよばれる。一遍は時衆を率いて遊行(ゆぎょう)を続け、民衆(下人や非人も含む)を賦算(ふさん)と踊り念仏とで極楽浄土へと導いた。生涯は国宝『一遍聖絵』(一遍上人絵伝)があますところなく伝える。

70) 複層林

樹木の枝葉の空間である樹冠が連なったものを林冠と言うが、複層林は林冠が上下段違いに2つ以上形成されている森林を指す。層の出来方によって、二段林、多段林、連続層林に分けられる。

71) 耕作放棄地率

以前耕地であったもので、過去1年間以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりした意思のない土地をいう。耕作放棄地率は以下のとおり。

耕作放棄地率 = (耕作放棄地面積) / (耕作放棄地面積 + 経営耕地面積)

72) 棚田オーナー制度

棚田の荒廃を防ぐため、市民に棚田のオーナーとなってもらい、地元との交流を図りながら、みんなで棚田の耕作を継続し、美しい棚田の景観を保全する制度のこと。

73) Iターン

出身地とは別の地方に移り住むこと。その地の魅力を感じて出身地等の地縁のない所に移り住むこと。地図上に示せば、アルファベットのI字状となることから、こう呼ばれる。

74) Uターン

都市部から地方への人口還流現象の1つで、地方から都市部へ移住した者が再び地方の生まれ故郷に戻る現象。人の流れを地図上に見立ててアルファベットのUの字を描くような移動のためにこう呼ばれる。

75) リバーツーリズム

「川遊び」の体験や清流景観の鑑賞など、川の恵みとのふれあいにより、訪れる人々に感動を与える観光のこと。

76) 観光産業クラスター

産業間の交流の促進や産学官のネットワークの強化などによって産業振興を図ろうとする産業クラスターの考え方を観光産業に当てはめたもので、地域において観光を軸とした顧客価値に基づく既存産業等の集積と連携を言う。

77) 農業の多面的機能

農業・農村は、農作物の生産以外にも、国土の保全機能、水源の涵養機能、自然環境の保全機能、保険休養機能、食料安全保障等、私たちの生活にとって大切な役割を担っている。この農村が果たしている様々な

役割のことを言う。

78) 認証材制度

消費者や住宅建築関係者が容易に地元産材を入手できるように、地元産材の履歴や品質といった情報を提供できる仕組みとして考えられた、地元産材を認証する制度のこと。原則として認証材には製材品ごとにラベルが貼られる。

79) 緑の雇用事業

林野庁の補助を受けて全国森林組合連合会が実施する「緑の雇用担い手対策事業」のことをいい、未来へ豊かな森林を残していくために必要な“森林(もり)の担い手”を育成していく事業のこと。林業就業に強い意欲がある人たちに森林整備等の作業に必要な技能・技術習得の支援を行い、山村への定住を促し、地域の活性化を目指すものである。

80) 森林の公益的機能

森林が有する、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供などの私たちの生活に深く関わる多くの機能の事を言う。

81) 川の駅

人と川とが付き合うための拠点として、さらに流域が情報を共有するためのネットワーク拠点、川をテーマとして(体験学習、環境、レジャー、地域の歴史など)人と人とが交流を深める拠点として整備される地域振興施設のこと。

82) LOHAS(ロハス、ローハス)

Lifestyles Of Health And Sustainability(健康で持続可能なライフスタイル)の略。健康や環境問題に関心の高い人々のライフスタイルを営利活動に結びつけるために生み出されたビジネス用語である。

83) スローライフ(Slow Life)

生活様式に関する思想の一つで、地産地消や歩行型社会を目指す生活様式を指す。日本ではスローフードが拡大解釈されて浸透した言葉である。

84) 限界集落

65歳以上の高齢者が自治体総人口の過半数を占める状態を「限界自治体」と言い、「限界集落」は、この定義を集落単位に細分化したものである。高齢化が進み、共同体の機能維持が限界に達している状態を言う。

85) 川丈街道

熊野川沿いの熊野古道のこと。一部昔の古道が残っている。

86) 熊野川流域ダム湖下流団体協議会

流域の市町村で構成され、熊野川流域の自然保護、環境保全、資源の利用、河川愛護思想の普及及び海岸侵食の保全等を目的として設立された。

87) 熊野川流域対策連合会

熊野川の流域市町村、関係機関で構成される団体のこと。熊野川流域を取り巻く諸問題の協議、関係機関への要望活動を行うことを目的に、昭和49年に設立された。

88) 保安林

森林の公益的機能の発揮を目的として、国が伐採の制限等を課した森林の事をいう。保安林は森林法に基づく指定の目的により17種類に分類される。

・整備計画の策定に向けて

89) 圃場整備事業

農地の区画を整地・整理すること。農林水産省や都道府県の公共事業として行われる。平地に近く広い地域を対象とする場合は、農業機械の操作性が高い長方形の圃場となる。

90) 捷水路整備

洪水を安全に流下させるため、蛇行した河川の曲がっている部分をまっすぐに直す河道整備の事を言う。

91) 御船祭

速玉大社の例大祭で、熊野川で繰り広げられる早船競争のこと。各地区代表の氏子が乗った9艘の早船が一斉に御船島に向い、そこを3周し決勝点を目指す。源氏を勝利に導いた熊野水軍を彷彿させる勇壮豪壮な祭り。

92) 減水区間

水力発電が行われている河川などで、取水箇所から発電所(放水箇所)の間の本来河川に流れている流量から発電使用水量が減水されている区間のことを言う。

93) A 類型

人の健康の保護及び生活環境の保全の上で、維持されることが望ましいとされる河川の基準のひとつ。河川の場合、pH、BOD、SS、DOおよび大腸菌群数の基準値や利用目的の適応性に対応して6類型が定められており、A類型は上から2番目に望ましいとされるものである。

94) 平清盛

平安末期の武将。保元・平治の乱で源氏に壊滅的打撃を与えて地位を確立。太政大臣となる。高倉天皇の外戚となり全盛を極めた。

95) 藤原定家

鎌倉前期の歌人・古典学者。「新古今和歌集」撰者の中で最も有力な存在。

96) 防災ステーション

洪水時において、円滑かつ効率的に河川管理施設(主に堤防などの施設)の保全活動や緊急復旧活動を実施するために設けられた拠点施設のことを言う。

97) 間接流域

利水ダムなどにおいて、流入水を確保するため、人工的に築造した水路やトンネル導水などで本来なら流れてこない流域の水をダムに導く場合があり、その増加した流域面積のことを言う。

98) 水利権

河川の流水を占用(排他的、継続的に利用)する権利のことを言う。